

ルパン三世~Super hero~

S.K

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ルパン一味と錢形機動隊との真っ向勝負

目

ルパン三世
Super

次
hero

1

ルパン三世～Super heroes

「ルパンめ…どうどうお縄をくれてやるわい…」

月の出でない外灯だけが頼りの真つ暗な夜、銭形はルパンのアジトを秘密裏に包囲した

「現在時刻、12：30、ルパン三世のアジトを包囲した…」

天気は晴天、しかし新月、風は…いささか塩っぽい…」

銭形は機動隊に手を振りあげ、いつでもルパンを捕まえる用意ができていることを表させる

「ぐへへへ…ルパンめ…今度こそ神妙にお縄をちようだいしろ…」

「というわけだ…次元、五工門、頼んだぜ」「承知…！」

「ところでよルパン、派手好きのおめえさんにしては妙じやねえか…？ルビー やダイヤを狙わずにどうして今回は音楽団の指揮棒なんぞ狙つてんだ…？」

次元は簡単には納得せず、ルパンに疑問をぶつける

「結論から言うと、あれはお宝に近づくステップでしかねえんだ…」

モーツアルトの指揮棒、ピアノ、そしてフィガロの結婚の直筆譜…この3つが揃つて初めてモーツアルト一族の隠された財宝が姿を現すってわけよ」

ルパンは自慢のワルサーを磨きながら笑みを浮かべて言う

「なるほどな…」

「それでその隠された財宝は私と二分するのよね…♪」

不二子はルパンの右腕に絡まりながら猫なで声で言う

「そういうこと…♪」

「けつ…ルパン、いい加減この疫病神から手を引いたらどうだ…！
今までこいつと組んでろくなことが無かつただろう…！」

毎度のことながら次元はため息を吐く

「るせえ…！」

次元、おめえは女を分かつちゃいねえよ…なあ…？」

ルパンはそんなことも構い無しに不二子とじやれあう

「好きにしろ…！」

「ルパン… 錢形に囮まれていてるでござるぞ…」

五工門は窓の外をちらりと目をやる

「嘘…どうするのよルパン！」

「どうするもこうするもねえよ…」

俺の計画に警察は「織り込み済み」なんだからな…」

ルパンはジャケットを羽織り、仕事モードに切り替えた

「ルパン！今すぐ投降しろ…！」

お前達は完全に包囲されている…！」

銭形はメガホンで呼びかける

アジトからは音沙汰もせず、ただ窓からはオレンジ色のランプの灯りが洩れるばかりである

「投降しないのか…

3秒待つてやる…！その間に投降しろ…！」

3…2…1…」

突入と同時にバイクのエンジン音が響き渡る

運転しているのは勿論憎き宿敵、ルパン三世、そして後ろに次元の姿もある
「し…しまつた…！やつらはバイクか…！」

あつ…！警備が手薄だ…！」

「とつあんよお…！俺の年貢は百年ローンで頼むわあ…！」

ルパンはウインクしてグングンスピードをあげる

後ろからは真っ赤なセスナが飛び立っていく

「くそ…セスナもいたか…」

銭形は歯ぎしりをするももう手遅れ、彼らはルパンの不敵な笑い声を残して夜の闇へ

と消えていった